

試験研究成果普及情報

部門	果樹	対象	普及
課題名：施設栽培に適したビワ新品種「はるたより」の品種特性			
〔要約〕ビワの新品種「はるたより」は果肉が軟らかく、甘味が強く、良食味であるが果実の耐寒性が弱いため、施設栽培に適している。施設では大果となり、高温障害の発生が少なく外観も優れるため、商品化率が高い特徴を持つ。また、「富房」より早熟であるため、繁忙期における労力分散が図れる。			
フリーワード [※] ビワ、品種、はるたより、果実特性、施設栽培			
実施機関名	主 査	農林総合研究センター・暖地園芸研究所・果樹・環境研究室	
	協力機関	長崎県農林技術開発センター、香川県農業試験場、鹿児島県農業開発センター、(独)農研機構果樹研究所	
実施期間	2011年度～2013年度		

〔目的及び背景〕

本県のビワ栽培は、経済栽培地域の北限という厳しい気象条件であることから、寒害を回避しやすい急傾斜地を中心に行われている。一方、生産者の高齢化が進んでいるため、比較的作業しやすく、労力分散が可能な施設栽培も進められている。本県の施設栽培の主力品種である「富房」は、大果であるが熟期が遅いため、生産者からは早生の新品種の導入が要望されている。また、施設栽培では高温障害（紫斑症）の発生が問題となるため、その発生が少ないことも重要である。

そこで本県では、オリジナル品種の育成を実施するとともに、本県の栽培に適した品種を選定するため、長崎県農林技術開発センターの育成系統に関する系統適応性検定試験に参加している。平成15年度から実施した第3回系統適応性検定試験及び平成23年度からの農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業において、「長崎14号」は品質が優良と認められ、平成25年に品種名「はるたより」として品種登録出願公表された。

〔成果内容〕

1 育成経過

「はるたより」は、長崎県果樹試験場（現 長崎県農林技術開発センター）において、昭和63年に「長崎早生」を母親とし、「77-856」（「シャンパン」×「津雲」）を交配した交雑実生で、平成25年2月1日に品種登録出願公表された（出願番号第27448号）。

2 樹体特性

樹姿はやや直立性で、樹勢は中である（表1、写真1）。耐寒性の指標となる果房における側軸の着生方向はやや上向きである。育成地の長崎県によると、主要病害であるがんしゅ病（A、B及びC系統菌のすべて）に抵抗性がある。

3 果実特性

熟期は、露地では6月上旬で「大房」より早く、施設では5月上旬で「富房」より早い。果皮色は橙黄で、果形は、露地では短卵、施設では長卵である（表1、写真2、3）。果重は、露地では53gと小さいが、施設では77gであり、「富房」よりは小さいが大果となる。糖度は高く、酸含量は低く、程よい軟らかさの食感で、食味は良好である（表2）。果皮の生理障害の発生は少なく、高温障害（紫斑症）の発生も少ないため、施設ではビワ10号袋（小林製袋産業（株））、露地ではビワ5号袋（同）でも対応可能である（データ省略）。果実の耐寒性は弱い。

[留意事項]

- 1 樹姿がやや直立性になりやすいので、若齢のうちから誘引が必要である。
- 2 果実の耐寒性は弱いため、施設栽培が望ましい。露地栽培では寒害を受けにくい園地を選択し、さらに防寒対策として早期摘らいによる開花期の延長、防霜ファンの設置、燃焼法の実施等が必要である。
- 3 苗木は許諾を受けた種苗会社から入手可能である。

[普及対象地域]

県内のビワ栽培地域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表1 「はるたより」の樹体特性、果実の外観、収量

区分	品種名	樹姿	樹勢	側軸着生方向	熟期 (月・日)	果実の外観			収量 (kg/樹)
						果皮の色	果実の大きさ (g)	側面の形	
露地	はるたより	やや直立	中	やや上	6. 4	橙黄	53	短卵	7.5
	大房	やや開張	強	下	6.11	橙黄	90	短卵	—
	田中	中間	やや強	下	6.16	橙黄	79	短卵	6.7
施設	はるたより	やや直立	中	やや上	5. 5	橙黄	77	長卵	13.0
	富房	直立	強	水平	5.17	橙黄	91	短卵	—

- 注1) 「はるたより」(露地):平成15年定植、(施設):平成18年定植
「大房」:昭和39年定植、「田中」:平成18年定植、「富房」:平成3年定植
それぞれ平成23~25年の3か年平均値、ただし収量は平成25年度の値
施設の「はるたより」と「富房」は異なる圃場
- 2) 露地ではビワ2号袋(小林製袋産業(株))、施設ではビワ12号袋(同)を被袋
 - 3) 樹姿:直立、やや直立、中間、やや開張、開張から判定
 - 4) 樹勢:弱、やや弱、中、やや強、強から判定
 - 5) 側軸着生方向:下、やや下、水平、やや上、上から判定
 - 6) 側面の形:扁円、円、短卵、短楕円、長卵、長楕円から判定

表2 「はるたより」の果実特性

区分	品種名	果肉			果汁		果皮の生理障害			果実の耐寒性
		色	硬度	食味	糖度 (Brix)	酸含量 (g/100mL)	そばかす	裂果	紫斑	
露地	はるたより	橙黄	やや軟	良	14.4	0.13	軽	微	微	弱
	大房	橙黄	やや硬	やや不良	11.0	0.17	微	微	軽	やや強
	田中	橙黄	やや硬	中	11.4	0.35	微	軽	微	強
施設	はるたより	橙黄	軟	良	12.9	0.23	微	微	微	—
	富房	橙黄	やや硬	中	11.4	0.35	軽	微	微	—

注1) 果肉の硬度：軟、やや軟、中、やや硬、硬から判定
 2) 食味：不良、やや不良、中、やや良、良から判定
 3) 糖度：屈折糖度計によって測定した可溶性固形物含量
 4) 酸含量：水酸化ナトリウムで中和される酸の含量をリンゴ酸に換算した値
 5) そばかす、裂果、紫斑：無、微、軽、中、甚から判定
 6) 果実の耐寒性：弱、やや弱、中、やや強、強から判定



写真1 「はるたより」の樹姿（露地）



写真2 「はるたより」の着果状況（施設）



写真3 「はるたより」の果実断面（施設）

[発表及び関連文献]

[その他]

- 1 指定試験事業「ビワ系統適応性検定試験」（平成15～22年度）
- 2 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「課題名：地球温暖化に対応した高品質ビワ新品種の開発と温暖化進行後の適地変化予測」（平成23～25年度）